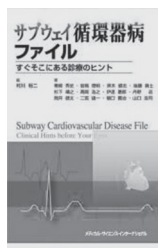


書評

【評者】
井上晃男
獨協医科大学心臓・
血管内科主任教授



サブウェイ循環器病ファイル 村川裕二 編

● A5変形 頁248 2014年
定価：本体4,500円＋税
[ISBN978-4-89592-762-8]MEDSi刊

本書のタイトルにある「サブウェイ」というのは電車の中でも気軽に読めるという意味もあるとのことなので、手にして早速通勤の電車内で愉しく拝読させていただいた。

本書の編者である村川裕二氏には『あなたが心電図を読めない本当の理由(わけ)』というメディカル朝日誌に連載されたものを3冊にまとめた著作がある。通常の心電図の教科書とは全く異なった、ある種心電図学という学問とはかけ離れた切り口で、非専門の実地医家の先生方にも自信をもって心電図を読んでほしいという著者の思いで書かれた名著である。そのなかには著者ご自身が研修医時代に経験された、誰も指導者がいない当直先の病院での苦労話も面白おかしく記述されており、同世代の私は無意識のうちに自分の昔と重ね合わせながら読ませていただいた記憶がある。実臨床の現場では、なかなか教科書どおりにはいかない場合が多い。そのような個々の現場での経験は皆で共有することが必要なのだが、オーソリティの書いた教科書や総説は学問的な見地からの体系的なものが多い。

本書は村川氏の意向で、まさに第一線の現場で目の前の患者を助けたい一心で医療活動に専念している若手の循環器医たちにより執筆されている。決して網羅的ではないが、それぞれの執筆者が日常臨床で感ずる素朴な疑問をテーマにして、自分の実体験をもとに自分なりのメッセージを展開している。どの執筆者の記載をみても、あちこちに「村川イズム」が感じとれる。しかも一個人としての見解に留まらず、文献的な根拠も示されている。

例えば「Ⅲ音」について、通常の教科書ではその発生機序「拡張早期の心室の急速充満による心室の振動による」や聴取される疾患としての「心不全、拡張型心筋症、僧帽弁閉鎖不全症など」という記載は必ずみられるが、本書における「何気なく聴診をしていると聴取できない」、「診断的意義は少なく、たまにしか聞こえない」、「シミュレーターを使って聞く練習をする」とよい、「心不全を疑うとき、Ⅲ音が聞こえればつじつまがあらうと納得する」といった記載は、現場の医師誰しもが感ずることであり、彼らの「生の声」である。通常の教科書には決して記載されることのない「裏話」である。さらに「Ⅲ音が聞こえれば自分の聴診器の品質が良いことも確認できる」や「もしⅢ音を耳にしたことがなくても、日常診療になんら支障はない」などの記載に至っては思わず笑いが出てしまう。オーソリティの大先生からは叱られそうだが、すべて事実である。また、「上手なPCI」には「名人芸的に上手なPCI」、「治療学的に上手なPCI」、「患者満足度的に上手なPCI」、「医療経済的に上手なPCI」、「カテ室的に上手なPCI」があるなどのくだりは、多くの若いインターベンションist達、あるいはインターベンションを目指す医師たちに是非とも認識してもらいたい事項である。

本書を拝読し、多くの若い医師に読んでもらいたい思いから今年教室に入局した4名の後期レジデント(兼大学院生)に入局祝いとしてプレゼントしたが、私にとっても本書は珠玉の一冊であり、教授室の本棚のいつでもすぐ手の届く場所に並べてある。